

1945年11月の出来事	新聞名	新聞日付	補足説明
けふ婦人同盟結成式	日本婦人新聞 創刊号	1945年11月3日	「日本婦人の解放と啓蒙」を目標に掲げた新興紙「日本婦人新聞」創刊号に、新日本婦人同盟の結成式が行われるとの囲み記事が掲載された。前月、女性に選挙権・被選挙権を認める「衆議院議員選挙制度改正要綱」が閣議決定された。女性の政治参加の機運が盛り上がっており、この紙面からも高揚感が伝わってくる。新日本婦人同盟は、市川房枝らを中心に、婦人の政治参加を促す活動を展開した。同紙は一時期、作家・評論家の塩田丸男、婦人運動家の春野鶴子などが記者として在籍。
四大財閥を完全解体	毎日新聞	1945年11月7日	11月6日、GHQ（連合国軍総司令部）の指令により、三井、三菱、住友、安田の四大財閥が解体を命じられた。GHQは財閥一族による企業への支配力を排除、各財閥が保有していた株式を分散させ、経済の民主化を推進しようとした。記事には「日本歴史において初めて日本国民が経済的自由を達成する途がここに開かれた」とのマッカーサー元帥のコメントが載る。
十一氏に逮捕命令	朝日新聞	1945年11月20日	11月19日、GHQにより、戦争犯罪人として荒木貞夫、松岡洋右、松井石根ら11人に逮捕命令が出された。GHQ謀報部の調査結果として、それぞれの経歴や戦争犯罪の具体的な内容が発表され、掲載された。
内大臣府廃止決定 / 本土人口 七千百九十九万	読売報知	1945年11月22日	天皇の常侍輔弼（＝じょうじほひつ）機関である「内大臣府」の廃止決定を伝える記事。内大臣は1885（明治18）年に宮中の職として設けられ、天皇の政治について補佐、進言する役割を担った。内大臣府は宮内省に設けられた部局で宮廷の文書に関する事務を担当していた。同じ紙面に全国の人口調査の結果も掲載された。市区別人口では横浜市の人口が62万4994人。大都市の人口が減少しているという。
幣原首相演説	毎日新聞	1945年11月29日	第89回帝国国会（臨時）が開幕した。衆議院では戦争責任、食糧問題など山積する課題に対する政府の施策の「弱点」を追求する質疑が行われた。首相・幣原喜重郎は施政方針演説で、国民に向け「新日本の建設に努力する」ことを求め、「民主主義的傾向の復活強化に対する一切の障礙を除去する」義務を、日本が負うことを説いた。しかし、社説は「窮乏のどん底に喘ぎつつある国民」にとって具体策のない演説は「失望の一語に尽きる」と臨評した。
目立つ散切り力士	朝日新聞	1945年11月17日	ザンギリ頭を叩いてみれば・・・ 11月16日から、戦後初の大相撲本場所が東京・両国の国技館で開催された。記事には「目立つのは坊主頭復興力士の数の夥しさ・・・」とあり、戦地から戻ったものの、まげが結えない力士が目立っていたようだ。明治初期、まげを落とした「散切り頭」の男性たちが、新たな時代の幕開けの象徴となっていたが、力士は例外的にまげを結っていた。力士のザンギリ頭からは「文明開化」ではなく「戦争」の音がしたということか。
観衆だけは本格的 お祭り騒ぎの早慶野球	朝日新聞	1945年11月19日	エラーはご愛嬌 11月18日、戦後初の早慶戦が明治神宮球場で行われた。両チームとも現役選手だけでは9人集まらず、OB選手も含めた陣容で、「急のチーム編成でエラーも多くゲームの内容は昔とは似ても似つかぬものではあった」とプレーに対しては辛辣な評価。しかし「朝から内野は満員」で「4万5千という観衆」が集まり、大変盛り上がった。敗戦により喪失感を抱いていた国民の心を明るくする「伝統の早慶戦」の再開であり、翌年の六大学リーグ戦の復活にもつながる重要な試合でもあった。
陽気なアメリカ兵 進駐軍兵舎に一日入営	読売報知	1945年11月21日	一日米兵体験 埼玉県にある進駐軍兵舎に記者が1日入営。第一騎兵師団の軍人たちの生活ぶりを伝えらる。案内役はハイスクール出身の「伍長殿」バントン君。11月中旬ということもあり、各宿舎では「アメリカのオイルストーブを持ち込んだり」冬支度を始めているらしい。兵士の門限破りには寛大だが、勤務上の失策には厳しい処罰もあるとのこと。で、「自由のなかにもその点ケジメをハッキリつけている」そうだ。記事には「仕事は楽しそうに」「上のも下のも下のもと一緒にあって働く」などあり、かつての日本軍との違いが垣間見える。このような記事は米兵のイメージアップにもなったのではないか。
生きていた英霊	読売報知	1945年11月26日	“玉碎”の影に 1943（昭和18）年1月にソロモン群島で戦死したとされた福岡市の男性が、今月15日に鹿児島に帰還した。実は、連合軍の捕虜となった日本兵の氏名は赤十字を通じて日本側に伝えられており、大部分は判明していたはずだという。生きのびた兵たちの存在を隠し、氏名を発表しなかったことを「非人間的」「玉碎。発表は多くの英霊を偽造していたのである」と激しく批判する。帰還した男性は、自分の墓や位牌を見て「近所の人々に何と挨拶をすればよいか」戸惑っていた。